

【松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻に合格されたみなさまへ】

【入学前課題】

子ども専攻での学びの準備

楽しんで、面白く、やってみよう！

松山東雲女子大学
人文科学部心理子ども学科
子ども専攻

子どもに寄り添う、質の高い保育者となるために

この度は松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科 子ども専攻に合格され、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。みなさんは今、これから始まる大学での学びに対する期待や不安の入りまじった気持ちでいらっしゃると思います。

子ども専攻では、4年間の養成課程を経て、学生さんたちが「子どもに寄り添う、質の高い保育者」となれますように、教員一同、それぞれの専門性からお支えする体制を作ってお待ちしております。

そこで、「子どもに寄り添う」こと、そして「質の高い保育者」となること、これを考えていくにあたり、入学までの4か月、まずは自分や周囲を見つめ直していただきたいと思います。

具体的には、これから入学までの時間に、みなさんに対していくつかの課題を出させていただきます。

この課題は、自分についてあらためて考え、理解を深めること・物事から気づくことや感じとること・他の人の言葉から自分がどう考えるかを書くという内容です。

大学では、これまでの高校での勉強をもとに、何かに対して、自分はどう感じるか。そしてどのような意見を持つのかということをはっきりと打ち出すことが重要です。

また、物事に興味関心を持つこと。観察して、おもしろいところを探すこと。・・・これらは幼児の特徴と重なるものです。コツコツと取り組み、やり終えて自信を持てる場所や強みは何か気づいていくことは、「質の高い保育者」になっていくための第一歩になると考えます。

今回の入学前の課題では、みなさんひとり一人が主体的に（自分から進んで）取り組めるようにさまざまな工夫を凝らしました。どうか、今のあなたの物事に対する感じ方や探求心をはたらかせて、これらの課題であなた自身を表現していただきたいと思います。

提出は、4月の入学式・オリエンテーションが終わり、1年生必修の「学びの基礎Ⅰ」の授業時間です。

それまで少しずつ、それぞれの興味・関心に応じてやってみてください。

来年の4月にお目にかかれることを楽しみにしています。

子ども専攻教員一同



課題内容

【はじめにお願い】

1. どのようなものでもいいので、ノートを1冊用意してください。無地でも、罫線があっても、紙の色は白くてもそうでなくてもかまいません。サイズはあまり小さすぎるものは役に立ちません。B5 サイズ以上にしてください。
2. 表紙に「入学前課題」と書いてください。その下に自分の氏名を書きます。

(かっこよく、あるいはかわいくなど、お任せします)

以下の3つの課題はすべてそのノートに書き込んでいくものとします。ゼビ色を付けたり、絵を描いたりしてみてください。

課題には画像を貼ったりするところもあります。「きれいに、おもしろく」するための工夫を自由におこなってください。[初回の「学びの基礎」(1年ゼミ)のときに提出します。]

※提出方法については、入学後オリエンテーションで説明をします!

課題1：私のライフスケジュールを描く

みなさんには「将来の夢を語るができる人」になってほしいと願っています。

みなさんは今、どんな夢や希望がありますか? 「将来は園長先生になりたい」とか「海外の幼児教育に携わりたい」といったものなど、どのようなものでも大歓迎です。夢や希望は日ごろから口にしたり、具体的にイメージすれば叶うとも言います。できるだけ具体的に、ライフスケジュールを考えてみてください。ノートに自分でこういう枠を描いて、「こうありたい」という内容を書きます。

(以下は作成例：イラストや写真なども入れて、楽しくしてください!)

時期と年齢		できごと	備考
大学時代	18	松山東雲女子大学に入学 ○○○のサークルに入りたい。 大学時代に……をマスターし、◇◇◇◇に取り組みたい。 ハングルを学び、韓国に留学したい……など。 単位をそろえ、めでたく卒業	取り組みたいこと、ほしい資格、経験など具体的に。
	21		
社会人になってから	22	卒業後は、～～に勤務。△△△△な保育者となる。	結婚しても、仕事はやめない? 家庭と仕事を両立し、やがて主任へ。 最終的には自分で幼稚園をつくる……など。
	27	5年勤めて、結婚?(結婚しないかも?)	
	33	さらなるキャリアアップを目指し……に取り組む 起業したい。社長になりたい……	
	50	娘と海外旅行へ。	
	90	まだまだ元気。ひ孫と遊ぶ毎日……など自由に。	

ゼミのはじめの時間で、これをもとに自己紹介をします。(少人数だから、心配しなくてだいじょうぶですよ。)

課題2：身近なモノや自然をよーく見て、顔や動物、そのほかいろんなモノに見えるモノを探

して写真を撮る。

たとえば子どもには「顔に見えるモノ」を探して（見立てて）楽しむ時期があります。これは幼児の造形表現活動における「見立てる時期」と連動したもので、ことばの獲得と共に物事に意味づけをしていく点からも、子どもの発達の過程においても大切なことです。

みなさんも、きっとそのような時期を過ぎて今に至っているはずなのですが、もう長いことこうしておもしろさを忘れて過ごしてきたことでしょう。

そこで、身の周りのあらゆる場所で、「顔に見えるモノ・動物やそのほかいろんなものに見えるモノ」を探してスマホなどで撮影してください。（スケッチでもOK。色も付けてくださいね。）枚数は自由ですが、探し始めるとおもしろくなります。気づいたモノが多ければ多いほど、写真は多くなり、モノの見方は洗練されることでしょう。撮影したモノの中からよいものを「選ぶ」こともできるでしょう。

注意点：①初めから明らかに「顔」や「動物」であるモノは、この課題の対象ではありません。あなたが「あ、これは顔に見える！」「まるで動物の〇〇みたいだ！」などと気づいたモノだけとします。

（下の例を見てください）

②お気に入りの一枚を必ず撮影。（複数枚OK!）

③「入学前課題」の自分のノートの決めたページにこの課題のテーマを書き、そこに、紙にプリントアウトしたモノを貼る。（すべて自分でレイアウトする。）

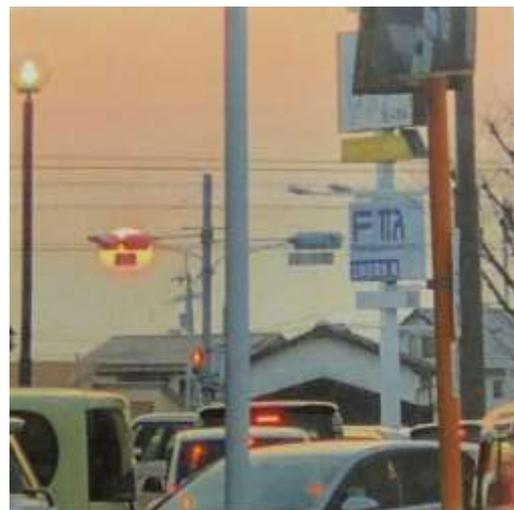
④タイトルをつけ、撮影日付や場所も書いてアルバムのようにする。

⑤この課題については、1年前期の「幼児と造形表現」という授業で取り扱いコメントします。ノートでの提出ですが、画像データもきちんと保存しておいてください。

（あとで、画像データを求めることがあります。）



例1 どうみても、ペンギンに見えてしまうポット



例2：どうみても、サングラスをかけているようにしか見えない太陽

あるモノに見えてしまうと、もう本当にそれにしか見えなくなりますね！
人間って不思議です。楽しんで撮影してみてください。

課題3：読書をし、感想文を書く。

子ども専攻での学びの準備として、子どもや子育てに関する内容の本、ものの考え方や生き方を学べるもの、またはあそびや絵本などの児童文化に関するものなど、読んでおくといいい本はたくさんあります。

以下のリストの中で、興味を持ったものを、少なくとも1冊は必ず読み、ノートに著者名、タイトルを書き、感想文を書いてください。感想文は、以下の1~4の内容を必ず盛り込んで書いてください。

文字数は自由です。ノートに手書きで書いてください。

- 1.どんな内容のおはなしであったか。(ざっくりと説明する。)
- 2.印象に残った部分・興味を持った部分はどこであったか。(具体的に説明する。)
- 3.2であげたことについて、あなた自身が考えることを書いてください。
- 4.その本の全体について、どんな感想を持ったか、印象を含めて書いてください。

【書籍（推奨するもの）リスト】 ※子ども専攻の先生方のおススメの本です。

図書館などで見つかると思います。価格についてはご参考まで。

- ^{しおみとしゆき}汐見稔幸 『こども・保育・人間』 Gakken 保育 Books、2018年、1,980円 Amazon
- トッド・ローズ (Todd Rose) 『ハーバードの個性学入門:平均思考は捨てなさい』早川書房、2019年
- ブレイディみかこ 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社、2019年、1485円(単行本)、新潮文庫、2021年 693円(文庫本)
(参考:『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2』も2021年に発売されています。)
- 中澤渉 『「学校の役割」ってなんだろう』筑摩書房、2021年、920円

【絵本（推奨するもの）リスト】

- 平野直再話、太田大八絵 『やまなしもぎ』福音館書店、1977年
- 林明子作、筒井頼子絵 『はじめてのおつかい』福音館書店、1977年
- 西内 ミナミ 作、堀内 誠一 絵 『ぐるんぱのようちえん』福音館書店、1966年
- ガブリエル バンサン 『アンジュール—ある犬の物語』ブックローン出版、1986年
- ジョン・バーンガム作、光吉夏弥訳 『ガンピーさんのふなあそび』ほるぷ出版、1975年
- モーリス・センダック作、じんぐうてるお訳 『かいじゅうたちのいるところ』富山房、1975年
- ローレンス・ブルギニョン作、柳田邦男訳 『だいじょうぶだよ、ゾウさん』文溪堂、2005年
- スーザン・バーレイ作、小川仁央訳 『わすれられないおくりもの』評論社、1986年

※これらに限らず、ほかにも読んでおもしろい本はたくさんあるので、ぜひ読んでみてください。

本を読むのは、人と話すのと同じこと。そして大学での学びの準備としてとても大事なことです。